

(仮称)第2期吹田市教育振興基本計画 第2回意見聴取会 議事要旨

■日 時：令和元年12月20日(金) 13:00～15:00

■場 所：吹田さんくす3番館大会議室

■出席者

【学校関係者、学識経験者等(以下、「学識等」という。)]

柳本敏恵(千里新田幼稚園長)、江下毅(南山田小学校長)、

村田正昭(第五中学校長)、和田大志郎(吹田市PTA協議会会長)

村田芳昭(吹一・吹六地区青少年対策委員会委員長)、島善信(甲子園大学非常勤講師)、

【事務局】

生駒教育政策室長、道場教育総務室長、當学務課長、橋本保健給食室長、中西指導室参事、木谷教職員課長、草場教育センター所長、曾谷まなびの支援課長代理、長中央図書館長、池田文化財保護課主幹、前田青少年室長、山下放課後こども育成課主査、古谷行政経営部総括参事、福山保育幼稚園室主査、市場まなびの支援課主幹、田畑まなびの支援課主幹、市川教育政策室参事

■次 第

- 1 (仮称)第2期吹田市教育振興基本計画の骨子案(令和元年12月20日)について
- 2 その他

■配布資料

次第

資料1 第1回意見聴取会での御意見と対応

資料2 吹田市教育ビジョン(骨子案)(令和元年12月20日)

■議事要旨

- 1 (仮称)第2期吹田市教育振興基本計画の骨子案(令和元年12月20日)について

事務局(進行)：資料説明(重点課題)

学識等：いじめ防止のためのプログラムについて、指導室は本日プログラムを持ってきているか。

事務局：未定稿なのでまだお出しできないが、生徒指導に関するプログラムと教育課程に関するプログラムを合体させた内容となっている。現在、それを各室課で確認をしている。プログラムの名前については、決定事項ではない。生徒指導における組織的な対応についての内容と、教育課程において、授業を大切にして、日々の教育活動の充実という2つの構成で作成している。

学識等：完成予定はいつごろか。

事務局 : 今年度内の完成を予定している。

事務局 : 現在、生徒指導編が現段階で 22 ページ、教育課程編が 38 ページぐらいのボリュームのものでたたき台をつくっている。詳しい具体策はこの中に盛り込まれると御認識いただきたい。

学識等 : まず、大変丁寧に対応してご検討いただいているのが、資料を改めて読んでよくわかった。中身が充実したのではないかと思う。

その上でいくつかあるが、12 ページのビジョンの体系図については提案にうまく対応していただいて、わかりやすくなった。

14 ページの重点課題のところ、他の委員さんからも御意見を聞き、重点課題とはいかなるものかを随分議論していただいた。苦勞して整理していただいたと思うが、まだ少しわかりづらい。

具体的に言うと、全体の枠の中で、あえて重点課題を大きく位置づけられたのかなと思う。文言で言えば、3 段落目だが、「基本方向の枠組みを超え、複数の施策により重層的に取り組んでいく必要のある課題」云々とある。つまり、関連の施策をあわせて総合的に取り組む必要があるという意味だと思うが、「枠組みを超え」というのはどういうことか、少しわかりづらい。何か超越しているみたいなことになっているが、枠組みを超えるのではない。枠組みがあって、その中に様々な施策はあるが、重点課題に取り上げた以上、枠組みの中にある様々な施策を集めて総合的に取り組んでいこうというのが、言いたいことかと思う。「枠組みを超える」というと、枠組みを置いて、別に超えたものがあるのかという理解になりかねないので、ミスリードを誘うことになりはしないか。「枠組みを踏まえながら」とか「枠組みの上に立って」とか、別のものではないというニュアンスをどこかで出せたらいい。

そして、次のところだが、「重層的に取り組んでいく必要のある課題と、主としてひとつの施策を取り上げている課題がありますが」というのは、いくつかの施策をあわせて総合的に取り組まないといけないものもあるし、1 つの施策だけれども、これは重点的に詰めて取り組んでいくという理解でいいのか。

事務局 : 12 ページの体系図をご覧ください。例えば、「いじめのない学校づくり」に関していえば、施策 9 の「生徒指導の充実」も関係するし、施策 6 の「豊かな心の育成と人権教育の推進」も関係し、施策 25 の「教職員の資質能力の向上」も当然関係してくる。これらの施策の枠組みを超えてという意味合いで書かせていただいた。

もう1つの「主としてひとつの施策を」については、重点課題の2では、施策17の「青少年相談の充実」をピックアップして取り上げたという意味合いで書いたつもりである。

学識等 : 「施策を超えて」というのは、施策があるが、それを置いといてという意味ではなく、関連する施策を横断的に総合的にという意味か。

事務局 : その通りである。

学識等 : 表現はともかくとして、そういうニュアンスが読み取れる表現にしたほうがミスリードは少ないのかなと思った。

それから、今言われたこともそうだが、相談体制については居場所づくりなどいくつか関連した施策があるので、1つだけではないと思う。いずれにしても、先ほどのようなことを思ったので、そのように受けとめていただければと思う。

「いじめのない学校づくり」の15ページの現状と課題で、せつかく推移のグラフを挙げているので、このグラフから見て取れる分析やまとめが必要ではないか。つまり、このグラフから何を読み取ってほしいのか。あるいは、教育委員会としてはここから何を読み取っているのかを少し盛り込んだほうがよいというのが1点である。

それから、プログラムを生徒指導編と教育課程編の2つの内容でつくるというのはとてもいいことで、大事なことだと思う。その中身をここに盛り込むのは無理だというのはよくわかる。ただ、具体的な内容はともかく、このプログラムの中に盛り込まれている大項目をこの中に入れることはできないか。具体的に記述するのは無理としても、どういう内容をこのプログラムの中に込めているのかは、この中に少し入れられないのかなと思った。

それから、16ページの2の(1)組織の問題について、表現が気になった。

「各学校のいじめに対応する委員会等を活用し」となっているが、学校によって組織名はいろいろだと思うが、すべての学校で委員会があるならば、「委員会がすべての学校にあり、それを活用し」とされたほうが、吹田市はここまで進んでいて、次の課題はこれだということになるので、もう少しきめ細かく記述されたほうが積極的だし、伝わりやすいと思った。

「困難を有する」と文言を整理したり、総合調整機能ということでより厳密に書いたり、よく受けとめていただいたと思う。校内研修については新たに項を設けていただいて、よい。

学識等 : 前回、いじめに関する重点課題1の中で、取組の検証の話があったが、それが抜

けているのは何か意味があるのか。作成予定のプログラムとの関係だろうか。

事務局 : 再度、検討を行った結果、取組の検証については、「いじめのない学校づくり」だけでなく、ほかの重点課題、基本計画に関しても全てに必要なことであり、いじめにだけ特化して書くのは適当ではないと判断し、抜いている。今日示した中には記載していないが、このビジョン全体を推進していくに当たってのPDCAサイクルについては別ページに記載しようと考えている。

事務局（進行）：資料説明（基本方向）

学識等 : 26 ページの基本方向2について、文言修正をしていただいたのは結構である。あと最後のコミュニティ・スクールのことだが、これは新たに書いて、積極的に取り入れていただいてありがたい。これで趣旨としてよくわかった。

ただ、文章表現が、「コミュニティ・スクールの設置は」が主語になって、「検討していく必要があります」となっている。コミュニティ・スクールのありようについては、心配することや積極的な側面など、いろいろ議論があるところで、各自治体で濃淡がある。それは今後じっくり検討していくというのはよいが、問題はなぜコミュニティ・スクールが言われているかにある。コミュニティ・スクールの積極的な意味を少し書かれたほうがよい。

「これまで築いてきた学校と地域の協働関係・信頼を大切にし」のところで、吹田は中学校区ごとに組織も整備されて、校区ごとの取組も継続、蓄積されてきた。とても大切な財産である。しかし、まだまだ十分と言えるものではなく、さらに充実、発展していくことが全国的に求められていて、吹田市においても求められている。そのため、そういう認識をまず示した上で、「なおコミュニティ・スクールの設置については」と書かれると、積極的なところをしっかりと踏まえて、当面は前向きに検討していこうということになる。ここのところはそういう意見を持ったので、さらに改善の余地があると思う。

事務局 : コミュニティ・スクールについては、先ほど先生が言われたように、国が示している学校運営協議会は、今ある制度をより発展させる形のものである。一方で、危惧されている面もあるのはおっしゃるとおりで、子供たちにとってそれがどうプラスになるのかを見きわめていきたいという趣旨でこういう書き方をしているが、現状と発展というあたりを含めて書くようにしたい。

学識等 : 26 ページに新しく「幼稚園等から引き継ぐ視点として」ということで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と入れていただいたのはうれしいが、これだけ

では小学校の先生はよくわからない。44 ページの用語解説に載せていただいているが、そこまで読んでいかないと、解説が載っていることがわからないので、何らかの工夫が要ると思う。

後ろの用語解説も、幼稚園の教員が見るとわかるが、小学校の先生にとっては初めて聞くようなことであるかもしれない。この内容を見て、ここからもっと具体的にどのように幼小で共有していくか。10 の姿はどういうものかをお互いに共有していくきっかけとなるぐらいの捉え方でいいのかなと思った。

事務局（進行）：資料説明（施策）

学識等 : 27 ページの施策4「小中一貫教育の充実」について、今まで取り組んできているので、その延長線上で粛々とやっていくというスタンスでいいのかどうかは少し意見がある。つまり、今まで吹田市で進められてきた小中一貫教育の取組が、目指すべきゴールのどのあたりまで来ているのかという評価の記述が、現状と課題のところで弱いように思う。そのため、施策4もそこらあたりを踏まえた次の課題ということは記述が乏しい。つまり、これを読んだ人が、吹田市の小中一貫教育は次はこういうところが課題になるのだと読み取れるかどうかについては課題があると思う。

もう一つは、このプランの名称から取ってきている「最適化」という文言は、一体何を意味するのか、よくわからない。その2点、意見である。

事務局 : 今まで小中一貫教育プランⅡということで培ってきたが、緊密な連携という部分の交流活動などについては一定評価できるところまで吹田は来ていると考えている。

加えて、それを継続しつつ、新学習指導要領がスタートすることを捉えて、その目指す狙いについて、各ブロックでどのような切り口で取り組んでいけるかを検討するのが令和2年度からになる。そのプランが最適化プランということで新しくスタートする。「最適化」という言葉の意味合いについては、全ての18 中学校ブロックで全く同じ取組をやっていくのではなく、様々な強み弱みを持っているブロックがあるので、それぞれを特色としてブロックの状況に応じて取り組んでいくということである。

学識等 : 何となくわかるが、「最適化」という意味がよくわからないところがある。

小中一貫教育は様々な切り口があって、小学校と中学校の段差をできるだけ適度なものにすれば、多くの子供たちが円滑に越えることができる。円滑な接続、適度な段差というのが、小中一貫教育の小学校と中学校の中でよく言われる。ま

るきり何もしないで9年間では、中だるみがある、区切りがどう、といったことが、小中一貫の弊害として言われたりする。

そういうことなので、段差がなくなると、小学校が中学校化するか、中学校が小学校化するかである。小学校らしい文化あるいは小学校の発達段階に応じた教育の特性があってしかるべきだが、それは一切なく、一貫校の1年生から9年生までずるずるといくのはよくない。その意味で、学校の教育の特性はそれぞれ違うことを踏まえながら、多くの子供たちが円滑に上級学校あるいは上級クラスに行けるような、一貫教育のポイントがある。

あるいは、小学校から中学校の9年間の国語なら国語のカリキュラムを、9年間の一貫したものに再編成して無駄がないように、あるいは途切れることのない9年間カリキュラムとして各教科でつくる動きも着手されていると聞いて、すごいなと思った。そういう一貫カリキュラムという切り口もある。

あるいは地域社会と小学校、中学校が一体化しながら学校の運営や学校体系づくりをしようという切り口もある。

そのようにさまざまな切り口が一貫教育の中にあり、その中のどこがポイントになっているのか。当面はどこに力点を入れていくか。各学校でそれぞれの実情に応じて進めるのに一律は現実的ではないので、それはいいが、どこに切り口をつけて、視点をどこに集めて進めていくのかという記述がない。

これはそれぞれバランスがあるので、全部は書けないが、1行でも半行でもいいから、そういう視点をどこかに盛り込めないかというのが私の意見である。それが「最適化」ということの中に全部含まれているとすれば、少し無理があると思った。

それから、2つ目は学力の問題だが、前文のところも含めて、今の新しい流れをしっかりと踏まえていこうという姿勢が出ていて、私は好感を持って見ている。ただ、もう少し工夫できないか。つまり、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」という3つの柱は、中教審でも提案されて、それを積極的に受け入れて、学習指導要領の中でも積極的に取り入れられている。つまり、国において示された新たな枠組みを吹田市はどう受けとめるかが求められているので、「何々を育みます」では味も素っ気もない。なので、ここはもう少しこれから変化する社会にしっかりと自分らしく生きていくための資質、能力を育みたいな、吹田市なりの咀嚼と受けとめを入れてもいいと思った。

それと、文言について、「言語能力の確実な育成」とあるが、「確実な」という言葉は違うのではないか。「着実な」や「確かな」あたりだろう。

3つ目は生徒指導の充実のところだが、これは入れていただいた趣旨はよくわかったので、とてもよい。あとは表記の問題で「問題行動や不登校、虐待等要配慮児童・生徒への取組」となっている。この「要配慮」、つまり配慮が必要な

子供という表現でいいのかどうか。例えば、虐待は子供虐待と正確に書いてほしいが、子供虐待には配慮が要るのでなく、サポートが要るのではないか。配慮では言葉が違う。いじめも配慮しなければならない問題ではない。いじめは人権侵害なので、その子の行った行動が間違っているということで指導対象になる。なので、ここは「要配慮」という言葉に私は引っかかっている。もう少し正確に記述をという意見である。

30 ページの施策 13 について、前回申し上げた公立図書館が学校教育とどう連携・協働するかという課題である。それを受けとめていただいた先ほどのお答えでよかったが、ここを見る限り少しこれも改善の余地があると思う。「また、学校図書館と連携し（中略）子供の読書活動の支援を進めます」となっている。つまり学校図書館と連携して子供の読書活動の支援をするという、そこが引っかかっている。読書活動の支援だけではないと思う。

学習指導要領において、言語活動を充実させようという内容に変わった。それは国語の教科だけではなく、いろんな活動で、とりわけこれからは探究の過程を重視しようとしている。つまり、これからの新しい学力を身につけていくために、調べ学習がさらに強調されることになる。子供自身が意欲的に新たな資料や教材を探して、その中から自分なりの意見やまとめをして、意見を整理して、友達と議論するという学習活動が強調されるので、学校図書館の活用も高まることが求められる。それに連動した市立の図書館の学校支援が問われているので、単に子供の読書活動を応援するというのでは少しスケールが小さいと思う。そのところはもう少し今のようなニュアンスが読み取れる内容にする余地があるという意見である。

事務局 : 読書活動の中の学校教育の立場で具体性を持たせた進め方ということか。

学識等 : 学校教育活動の支援である。その中に子供の読書活動もあるし、調べ学習もあるし、いろんな活動があると思う。なので、学校教育との連携、協働みたいなくくり方のほうがより積極的と思うが、そんなことを書いても実際にそれを進める手立てがないのなら書きにくいし、そのあたりを判断できないが、今求められているのはそういうことである。学校教育に吹田市立の図書館がどのようにコミットして、協働した活動としてつくり上げていけるかどうかという問題意識である。

事務局 : 現状、「ごりまる便」などを活用しながら調べ学習の、例えば平和学習につながる書籍をたくさん配達したりということは実際行っているのでは、それが見えるような形の記載も大事だと思う。

学識等 : 具体的な内容は書かなくても、取り組んでいることが想像できるように書いていただければよい。

事務局 (進行) : ほかの分野についていかがか。全体で御意見があれば願います。

学識等 : 前回から具体的に変化があって、わかりやすくなっているのはありがたい。その中で、出てきた言葉が用語集にあるかどうか最後まで見ないとわからないので、※印をつけて、用語集を見ればわかるようになっていればもっと活用できる。

レイアウトの話で、基本方向と施策1、2、3が一緒だというのが色で示せたらいいなと思った。1が3つある、2が全部で8つあるみたいなのが色でわかればよい。

事務局 (進行) : 体系図の話か。

学識等 : そうである。ここまでは色が一緒で、次は色が違っていけば、セットだというのがぱっと見てわかる。こういうのはそれぞれの好みだと思うが、少し気になった。

学識等 : 36 ページの施策 23、先ほど後回しにした進路の件について、ここに書いてある内容は全部正しく大事なことなので異議はないが、足りないところがあるのではないか。中学校卒業後の進路選択について、それぞれの子供が持っている現段階での資質、能力、もっと言えば知的能力、テストの点で測れる力、学力と、それだけではなく興味や関心など、その子の持ち味、個性、またその子の置かれている生活状況を踏まえて、その子にとって一番ふさわしい進路先がみんなの協力で見つけられるようにすることが、私は求められる進路指導、進路選択だろうと思う。ところが、今はそうっていない。ここには経済的な理由でそうならないことは書いてあるが、そのほかにもさまざまな要因がある。ここで書かれている内容は少し狭い。

全ての子供が自分の資質、能力や、個性や興味、将来の希望、そうしたものに従って、一番その子にふさわしい進路先が見つかるようにしなければならないということをここに書いてほしい。

事務局 : キャリア教育という形で、施策8とか施策5に加えることも考えられる。

学識等 : ここは権利の保障で、そのような内容を書くところではないのであれば、しかるべきところに記載いただければよい。

進路指導、あるいは進路選択支援と言ってもいいが、中学校卒業後の人生の、

その子らしい第一歩を応援することが必要で、中学校の教師はそれに血道を上げる。ただ、全体的な傾向で、外からの批判としてあるのは、それがテストの点数で受かる高等学校だけになってしまっているとか、あるいは発達障がいも含めて障がいのある子や不登校の状況にある子供たちにとっては、見つからない状況の中で苦勞している状況がある。全ての子供と言う場合には、その子らがはじかれてはいけない。

一定の成績がある子も、自分の興味とかなりたい職業とかと関係なしに、ここは受かるからここへ行ったらどうかみたいな指導になっている傾向はないかという問い返しも含めて、進路の問題はとても大きい。それがここに抜けているのは私は了解できない。その辺をコンパクトに問題意識と方向性みたいなことはぜひメッセージとして入れていただきたいと思う。

事務局 : 施策として加えるところはないので、入れられるとすれば、文言として施策 8 のところでキャリア教育が出ているので、そこを少し膨らますかどうか。

事務局 : もしくは 26 ページの現状と課題のところ、少し書き込みを入れるか。

事務局 : 子供たちの生き方を選択するという、広い意味での教育というところで、26 ページとか 28 ページに取り込むような形か。

学識等 : もしくは一貫教育のところはどうか。

事務局 : 9 年を通してということで、そこも考えられる。

学識等 : 施策が固まってしまっているもので、それは動かせないと思うが、大事な観点であるので、どこかにぜひ入れていただきたい。

事務局 (進行) : ほかの観点はよろしいか。

学識等 : チームとしての学校のところをちゃんと入れていただき、よくなった。

学識等 : まだ完結しているわけではないが、たくさん出た様々な意見を吸い上げていただいて、非常に多大な時間を割かれたのではないかと思う。せつかくこういう形でいいものをつくっていただいているわけだから、市民の方々、あるいはまた学校で教職員がしっかり見て、前も申し上げたが、これを見ることによってやる気が出てくるというか、現場に生かしていけるようなものをつくり上げていただけ

ればと思う。まだまだよろしく願います。

学識等 : これをもとに学校で頑張っていかなければいけないなど、逆に思っている。

学識等 : 丁寧に訂正等していただいて、随分わかりやすくなったと思う。本当にこうして苦勞してつくっていただいているので、現場で本当に使えるビジョンとしてでき上がっていくことを望んでいる。よろしく願います。

学識等 : これはすごいなあという感想である。僕はこれまで全く知らなくて、こういう会議を開催し、多くの時間を使い、また指摘事項に全部対応して、すごいなと思った。こういうのがあるというのを少しずつ広めていければと思うので、今後ともよろしく願います。

学識等 : 中身はともかく、前回と違って格段に読みやすいので、見る気がする。教育関係者以外の人は大体見ないから、少しでもぱっと目につくようなレイアウトや枠組み、色ももちろんだが、下線の部分である等、すごい変わりようで、うれしかった。

用語解説集のところで、43 ページに発達相談員が全く同じのが2つ載っているのでそこだけ修正をお願いします。

学識等 : 内部で議論を重ねられてブラッシュアップされて、仕上がっているなど思った。

これをできるだけ多くの方に見ていただくのが一番だし、教育ビジョンは単に教員や教育専門家だけでなく、保護者や市民の皆さんに見ていただくというのはとても大事で、吹田市の教育はこういう方向で、こんなことを大事にしてさらに発展させていくよというメッセージが具体的なものとしてあるのはとても大事である。

表現のところにまだ少し行政文書的なところが残っていると思うので、そんなことも含めてなお努力していただいたらよい。読んで伝わりやすい、ミスリード、誤解、誤読がないような表現、わかりやすい表現にさらに努めていただきたいと思う。

いくつか提案がある。用語解説はそれぞれ言われていたので、該当のところには注か何かを入れられて、通し番号を書かれたらいいと思う。

あと、1つ目は、10 ページに「チームとしての学校」という項がある。ここに「教職員に加え、多様な専門性を有する人材が学校運営に参画しています」と書かれている。吹田市は随分力を入れてこのところを独自施策で、府や国の措置に加えて予算を上乗せしてされていると思う。こういうところこそ吹田市の独自

な、積極的な教育施策の具体的あらわれであるので、ぜひ独自の施策についてはしっかりと伝わるようにしてほしい。やっているのに誰も知らないのでは具合が悪いので、せつかく大切な市民の税金を投入して教育の充実を具体化させているのだから、それは積極的に入れたほうが良いというのが提案の1つ目である。

2つ目は先ほど申した用語解説の点。

3つ目は、「Ⅰ 吹田市教育ビジョンの概要」で、策定の趣旨、「Ⅱ 教育をとりまく状況」、「Ⅲ 本市の教育の状況」となっている。この枠組み、項立てはこれでわかりやすい。このようなものを意欲的につくられたのも大賛成である。とりわけ「教育をとりまく状況」は、社会教育のところで、日本の教育が今どういう状況にあるか、大きな流れはどうかを非常にコンパクトに、しかもわかりやすく、過不足なく書かれていて、私は大賛成で、ようやくこんなのを書いてくれたなと思って喜んでいる。

ただ1つだけ、子どもの貧困対策は、国も今とても力を入れている。これは内外の圧力がかかって、政府は無視できない、取り組まざるを得ないという状況の中で国は相当注力しているので、抜かしてはいけない。

それからもう一つは、1の「策定の趣旨」のところである。「策定の趣旨」は作成途上なので、もっと充実されるだろうと思うが、やはりぜひ盛り込んでいただきたいのは、今回のビジョンをリニューアルするには、これまでの10年間のビジョンがある。これの総括、どこまで来たのかということと、新たなこういう課題があるから次のビジョンを策定するということである。ここには時代の変化が激しいので10年では間尺に合わない。5年ごとにやるみたいなのが書いてあって、それはそれでいい。これまでの経過の上に立って、さらに次へという中身が少しここに抜けている。これはぜひ、御検討になっていると思うが、含めていただけることを期待している。

それから、「Ⅲ 本市の教育の状況」のところだが、これはとてもわかりやすい。あえてこういう資料を実証的に載せられているのも大賛成である。吹田市の強みと、それから課題ということで、このグラフ1つを見てもよくわかる。全国に比べて吹田市が落ち込んでいるところ、例えば5ページの図表4で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いで、小学校は全国よりもそうだという子が多いが、中学校では有意の差があるぐらい段差がついている。これは課題かなと思う。とりわけいじめの問題は深刻なので大きな課題と思うが、そのようにして課題も見えているし、吹田の特徴としていいなと思うものも随所に見られる。これをあえて載せているのはいいなと思った。

問題は10ページの「(3) 教員の年齢構成」のところである。年齢構成についてはここに書かれてあることに異議はない。しかし、女性が半分で、しかも結婚されて出産期の女性が増えているので、こういう問題があるという指摘だけで

ある。これは、女の方は結婚・出産期があるのでこんな課題があるよと、少しミスリードされかねない。

これはもちろん事実で、大事な視点なので対策を講じなければいけないが、それよりも何よりも、スクールリーダー層が経験の少ない教員が大量になって、実践的指導力が間に合わない。これは1つの課題で、よく言われていることである。それから、もちろんスクールミドルリーダーがこれから不足するので、その養成が急務だということは、ほかのところに書いていると思うが、そういう課題があるので、ここにも書かないといけない。その上で女性教員のこういう課題があって、安心して働くためにはこの施策を充実しなければいけないと書くのが順応ではないか。ここはもう少し、これも作成途上なので、意見として申し上げておきたい。

それから最後に、吹田市で深刻ないじめ事案があった。社会問題になるほどの大きな出来事で、みんなの関心が非常に高い。これについては一生懸命、教育委員会を挙げて何とかせねばならないと、この課題をしっかりと解決に結びつくようなこととして捉えて、課題意識を鮮明にしていることは重点課題のようによくわかる。どういう書きぶりになるか私はわからないが、市民は関心を持っていると思う。そのことがここには一般的には書いてあるが、具体的にはどこにも書いてない。どこかに書いているか。

事務局（進行）：15 ページの一番上の標題の下に書いている。

学識等：これを最初のビジョンの概要のところ盛りに盛り込めないか。せっかく重点になったので、「IV 重点課題」の14 ページに盛り込むか、以降のページのどこかに入れるか、1 ページの「策定の趣旨」のところに入れるかわからないが、個別各論ではなく、全体の中にどこか入れられないかというのが私の意見である。あえてそういう意見を最後に言わせていただいた。

事務局（進行）：本日は前回の御意見を踏まえた修正について、大枠について了解いただいた。本日新たにいただいた御意見をもとに再度検討を行う。

2 その他

事務局（進行）：今後の予定について説明。